

# 特定非営利活動法人日本小児集中治療研究会 設立趣旨書

わが国の少子化現象に焦点が当てられて久しくなりますが、次代を担う乳幼児・小児のための医療、特にその集中・救急医療の環境には決して万全とは言いがたいものがあります。小児が緊急事態に陥った後に無事に生き延びられるためには、地域全体の「救命の連鎖」こそ、小児の蘇生の一部ととらえられるべきであるといわれています。「小児の救命の連鎖」とは、子どもの心肺停止を予防するための教育に始まり、予防できなかった子ども達に対する一次救命処置（BLS）、適切なタイミングでの救急隊への迅速な通報、病院救急部門における迅速で効果的な小児二次救命処置（PALS）、そして蘇生後の回復期のケアやリハビリテーションまでを包括した大きな流れを意味するものです。また、小児の緊急事態に陥る原因（心肺停止など）は成人のそれとは大きく異なり、さらに年齢によって予防・対応方法が異なるものです。しかし、小児に特化した医療技術・施設の不足、両親の見識の無さが問題とされ、「救命の連鎖」の要件はハード・ソフト面ともに、全く不十分な状態です。そこで、世界標準にも立ち遅れているといわれるわが国の小児集中治療の向上を図るべく、（特定非営利活動法人日本小児集中治療研究会の前身、）（旧）日本小児集中治療研究会は、1994年、旧国立小児病院麻酔科のスタッフ数名により任意団体として設立されて以来、各種の活動を行ってきました。

普及・啓蒙活動として講演・論文発表、資料提供およびディスカッションを行う「小児集中治療ワークショップ」を毎年開催して参りましたが、平成16年（第12回開催）では参加者700名を超え、当研究会の影響力も拡大していると考えます。あわせて、時宜を得て各種セミナーの開催を企画し、海外からも専門家を招聘してこの分野の先端情報を取り入れるなどの努力を続けております。

更に、欧米やアジア諸国では小児医療従事者に習得が義務付けられ世界標準的なプロトコルである小児二次救命処置（PALS）については、長年の努力がようやく実り、2002年当研究会が日本で唯一、この技術の提唱機関である米国心臓協会AHAより、講習会継続開催を認証されました（2005年5月現在、PALS講習受講修了者約1,000名）。年齢や状況によって異なり、成人よりも難しい対応が求められる小児集中治療において、PALSの普及は医療現場において実際に大きな成果を挙げるものとなります。

今後、広く一般市民および医療関係者に対して、小児救命救急・集中治療の普及・向上を図り、「小児の救命の連鎖」を広く目指すため、前述の取組みの拡大継続および一次救命処置（BLS）普及も含む活発な全国的活動および指導者の育成は必要不可欠であると考えます。このようなことから、当研究会の母体を更に磐石なものとし、広く小児の医療と福祉の向上に寄与するために特定非営利活動法人格を取得いたしたく、ここにその申請をいたします。